

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【見沼小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	学校全体で見ると、基礎・基本の定着が徐々に図られてきている。しかし、教科によってはまだまだ十分とは言えない部分が見られる。今後は個に応じたきめ細やかな指導をより一層充実させていく。さらに、今年度同様、スタディタイム等で、各教科における基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っていく。
思考・判断・表現	今年度に引き続き、PBL型授業を全校級で実践するとともに、学校課題で情報を取捨選択したりまとめたりする力の系統表を作成し、全教育活動を通して学年に応じた「思考力・判断力・表現力」を身に付けられるように授業改善を行っていく。
主体的に学習に取り組む態度	「〇〇の勉強は好きですか」の肯定的回答が令和4年度よりも増加したが、教科や学年によっては昨年度結果や市平均を下回っているものもあるため、児童がより主体的に学習に取り組むことのできる授業改善・実践を行っていく。

① 目 標・策			
目 標			策
知識・技能	令和5年度さいたま市学習状況調査において、令和4年度さいたま市学習状況調査の自校の結果(国語及び算数の知識・理解)を上回る。	⇒	業前活動において、週1～2回の「スタディタイム」の設定。また、「ドリルパーク」や「スタディサプリ」と計算ドリルを併用することで、基礎・基本の定着に向けた反復・習熟を図る。
思考・判断・表現	令和5年度さいたま市学習状況調査において、令和4年度さいたま市学習状況調査の自校の結果(国語・算数の思考・判断・表現)を上回る。	⇒	学校課題研究でPBLを意識した授業改革に取り組む。自分で仮説を立て、オクリンク等の機能を用いて調査や検証、共有を行うことで、児童の思考力・表現力の向上を図る。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度さいたま市学習状況調査において、令和4年度さいたま市学習状況調査の自校の結果(「〇〇の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答の割合)を上回る。	⇒	学校課題を軸にしたPBLの実践を全校級1単元以上実施し、児童が主体的に課題と向き合い、取り組む場を多く設定する。

<小6・中3>(4月～5月)

⑤ 目 標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	国語と算数の「知識・技能」について、8項目中6項目で昨年度の平均正答率を上回る結果で、目標の75%程度の達成度となった。毎週のスタディタイムで「ドリルパーク」や「スタディタイム」と計算ドリル等を併用して、基礎・基本が定着するよう反復・習熟を継続したことが結果につながったと考える。	B
思考・判断・表現	算数においては、昨年度よりも全学年で平均正答率が向上した。しかし、国語では、4年生が昨年度よりも向上、3年生が同等の結果となった。5、6年生では昨年度平均正答率よりも若干低い結果となった。PBL型授業の実践で、収集した資料を取捨選択したり、適切な成果物を作成したりすることで徐々に向上してきていると考える。	B
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度と昨年度の「〇〇の勉強は好きですか」の結果を比較すると、22項目中16項目で昨年度よりも肯定的回答が増加し、75%程度の達成度となった。各クラスでPBL型授業を実践したことで、昨年度よりも児童がより主体的に学習に取り組むことができるようになってきたためだと考える。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一步)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	昨年度の自校の結果と比較すると、国語も算数も良好な結果となっている。しかし、国語において、問題に対して中程度量で示されている正しい解答を選択する部分で正答率が若干低い結果となっている。文章を正確に読み取る部分での課題が見られる。また、敬語に関する基礎知識の未定着も正答率や無解答率の数値から苦手意識がみられる。算数においても、基礎・基本を問われる問題での無解答率が多くみられることから、既習事項の定着に課題が見られる。
思考・判断・表現	国語においては、資料を読み取り分かったことを書く問題について無解答率が全国や県と比較しても2倍近く高くなっている。このことから、資料を読み取り分かったことを、中程度量の文章でまとめることに苦手意識の高さがうかがえる。算数においても、国語と同様、一定量以上の問題文や資料を読み取り解答を記述する問題の無解答率が高くなっている。国語も算数も分かったこと等を記述する問題に課題が見られることから、短文から中文程度で自分の考え等を記述する活動を重視していきたい。
主体的に学習に取り組む態度	「国語/算数の勉強は大切だと思いますか」や「国語/算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」等の質問項目に対しては、9割以上の児童が肯定的回答をしているのに、「国語/算数の勉強は好きですか」の質問項目に対して、ともに肯定的回答が6割以下と低い結果となっている。学習の重要性は感じているものの、「好き」の意識が低いことから、児童主体の探究的な学びの実践をより重視して実践していく必要がある。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	令和5年度の結果(平均正答率)において、令和4年度よりも算数は「知識・理解」「思考・判断・表現」ともに向上した。しかし、国語は「知識・理解」「思考・判断・表現」ともに減少もしくは同等の結果となった。国語においては、文章を正確に読み取る力を高める必要があると考える。算数においては、特に図形の定義や特徴に関する知識・理解の定着を図る必要がある。	小4	令和5年度の結果(平均正答率)において、国語の「思考・判断・表現」と算数の「知識・理解」「思考・判断・表現」では昨年度結果よりも向上した。しかし、国語の「知識・理解」に関しては、昨年度よりも減少した。算数において、表やグラフを正確に読み取る力が若干低くなっていることから、図表の見方等の確認をしていく必要があると考える。
小5	令和5年度の結果(平均正答率)において、国語の「知識・理解」と算数の「知識・理解」「思考・判断・表現」では昨年度結果よりも向上した。しかし、国語は「思考・判断・表現」で昨年度よりも低い結果となった。国語では中程度量の文章を適切に読み取ること、算数では文章題から立式したり数直線に表したりすることに課題がある。	小6	令和5年度の結果(平均正答率)において、令和4年度よりも算数は「知識・理解」「思考・判断・表現」ともに向上した。しかし、国語は「知識・理解」「思考・判断・表現」ともに減少の結果となった。国語においては、漢字の定着や文の構成等について課題が見られるため、前学年までの学習内容の反復も効果的であると考える。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)			
目 標			策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし